

おはようございます。先週のテストでは、学校で学習の疲れを久しぶりに実感したと思います。

さて、今からいう数字が何かわかりますか。「3547」です。……

正解は、夏の高校野球に参加した学校の数です。高校球児たちは、甲子園優勝という夢を持って参加するわけですが、3547校の中で夢がかなったのはたった一校です。けれど、かなわなかった学校の選手たちには何も残らないわけではありません。

夢や目標に向かって一緒に頑張った仲間は、生涯の友となるでしょうし、応援して下さった方への感謝や思いやりの心が育ったことなど、次の夢に向けての良い経験ができたはずです。

これから、夢の大きさについて、二つの話をします。

「エベレスト理論」という言葉がありますが、それは、夢や目標は大きければ大きいほどいいという考えです。高い山の登山を目指すときに、世界最高峰のエベレストを目指す人にとって、日本の最高峰である富士山登頂はたやすいけれど、富士山登頂を目標にしている人にはエベレストなど絶対に登りきることはできないということです。

皆さんもそう思いますか？

もう一つは、小学校の教科書にあったと思いますが、2009年に東大阪市の中小企業が技術を結集して、種子島から「まいど1号」という人工衛星の打ち上げに成功しました。そのプロジェクトに関わっていた竹内さんという人がこんな話をしていました。

東大阪の会社役員に二名のお嬢さんがいましたが、その姉妹の前に二人の男性が現れました。初めに現れた男性は、姉妹に向かって「私には、大きな夢があります。それは世界に羽ばたくことです。見ていてください。」と語りました。

次に現れた男性に二人が夢を訊ねると、「私の夢は、今働いている会社の部長になることです。そのために、今英会話を今勉強しています。」と答えました。

二人が帰った後、妹は「2番目の方は、夢が部長だなんて駄目ね。小さすぎるわ。」と言いましたが、姉はそうは思わなかったようです。

結局、妹は世界に羽ばたく夢を持つ男性と、姉は「部長になりたい」と言った男性と結婚したそうです。

10年後、姉夫婦は海外にも会社を作り始めるほどの豊かな生活を送っていましたが、妹の結婚した相手は、働きもせずにごろごろとしていた夫を養うために、休みなく働かないといけませんでした。世界に羽ばたくと語った男性は、夢を語ったのではなく、単に大きな話をしただけでした。「できもしないことを言っただけ」だということに姉は気付いたのかもしれないね。

けれど、部長になると言った男性は、本当に夢を実現するために努力していたのです。夢を語る人は、その夢を実現させるために何かを始めている人です。

二学期が始まった現在、みなさんも目標を決めましたね。どうか、大きな夢を実現させるために努力できる目標を掲げてほしいなと思います。

まだまだ暑さも続きそうですが、有意義に二学期を送ってください。

以上